

71  
2017  
Spring



在学生のワタシ★アクション!  
**世の中の課題を解決する  
ロボットを開発したい**

特集01 インターミックスの取り組み  
特集02 学生生活をホンネで語ろう!  
ラボ★アクションー

KENDAI-NEWS  
ケンダイ広報局  
卒業生のワタシ★アクションー

71  
2017  
Spring



卒業生のワタシ★アクション!

**沿線の地域の未来を乗せて、  
出発進行!**





千田先生が分担執筆で関わった著書の一例。

# ラボ★アクション!

## 先生たちの研究の流儀

地域のシンクタンクであり、多彩な学部を擁する岩手県立大学には、個性豊かな先生がたくさんいる。彼・彼女らがどんな想いを抱き、日々どんな研究に取り組んでいるのか。その横顔に迫ってみたい。



2014年に参加したアメリカ・ワシントン州立大学での研修の様子。

「この経験を学生に還元したい」と復帰を決め、県立大学に戻ってきた。「老年看護は派手ではないかもしれませんが、今後ますます重要になっていく分野」と話す千田先生は、老年看護が抱えるさまざまな課題の研究に取り組んでいる。2014年にはアメリカ・ワシントン州立大学の研修に参加。現地の研究者と日米の老年看護の違いや共通の課題について議論をするなど、今後の研究につながる見聞を広げてきた。

老年看護を積極的に学ぶ学生も多く「素直で真面目。将来も堅実に見据えている」と評する一方、「もっとよそ見をしてもいい」と思っているという。「せっかくだから、法律や福祉、IT、国際などいろんな分野から看護を見つめるのもおもしろいんじゃないかな。それが大学で学ぶ醍醐味だとも思っています」。

これからの老年看護のありかたを、広い視野と柔軟な心で模索し続けたい

将来の夢は、看護師か教師。その両方を学べるからと、弘前大学教育学部の特別教科(看護教員養成課程に進学した千田先生。卒業研究に選んだテーマは、現在の専門である「老年看護」。しかし当時は、将来この分野の研究者になるとは思ってもいなかった。卒業後は東京都内の病院に就職し、急性期病棟の看護師に。3年後岩手に戻り、高



## 「ETロボコン」で生まれたチームの絆 徹夜作業もいい思い出

研究室の仲間とロボットの動作チェック。冗談が飛び交う和気あいあいとした雰囲気。

小さい頃からロボット好きで、高校の部活もロボット部。「ロボットを制御するソフトの開発」に興味を持ち、ソフトウェアを専門的に学べる岩手県立大学を選びました。

所属している研究室では、毎年チームで「ETロボコン」に出場しています。ロボットが障害のあるコースをいかに正確に速く走行するかを競うもので、同じ型のロボットを使い、プログラミング(組み込みシステム技術II ET)のみで勝負するのが特徴です。私が学部2年生のとき、チームが東北大会で優勝。その感動が忘れられず、リーダーを任された2016年大会は「何としても優勝を」とチーム一丸で挑み、3年ぶりに東北大会優勝を勝ち取りました。

企業チームをはじめとする強豪チームの高い技術を見られたり、モデル(ソフトウェア設計)のスキルが身に付くなど、ETロボコンは刺激を受けることがいっぱい。自分の研究テーマ「ロボットの衝突回避」に取り組み上でもすく役立っています。大会前に徹夜で作業するなど、チームの絆が深まるのもいい。徹夜はつらいけど、みんなで乗り越えたときの喜びは格別です。

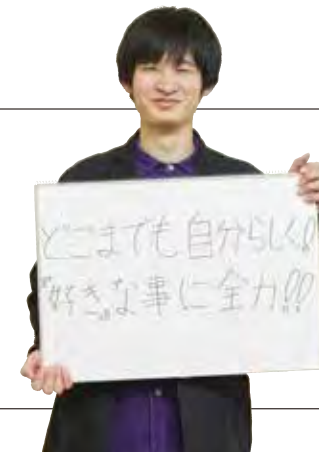
将来の夢は、世の中の課題を解決するロボットの開発に携わること。県立大学はソフトウェアの専門知識はもちろん、ハードなどの周辺分野も幅広く学べますし、実践の機会にも恵まれています。好きなことに熱中できる環境があり、行動すればチャンスを与えられる場所。だから、今できることはどんどん挑戦したいと思っています。毎日忙しいけど、それ以上に楽しいです。

# ワタシ★アクション!

岩手県立大学大学院 ソフトウェア情報学研究科 博士前期課程 1年

赤川 徹朗 Tetsuro Akagawa

1993年生、秋田県大崎市出身。横手清陵学院高校卒業。2012年に岩手県立大学ソフトウェア情報学部に入學し、卒業後同大学院進学。研究テーマは「ロボットの衝突回避」。ETロボコン出場や研究に明け暮れる中でも「息抜きは機械いじり」という根っからのメカ好き。趣味はほかに写真、水墨画、筋トレなど多岐にわたる。



..See You Next Action!



# 学生と企業の接点を広げ、若者の地元定着を後押し!

文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(インターンシップ等の取組拡大)」で最高評価をいただいた岩手県立大学。昨今、インターンシップは就業力育成の観点から社会的にも注目されている。学生にとっては仕事の意義や働く喜びを知り、自分の成長につなげられる貴重な機会。今回は本学のインターンシップの取り組みについて紹介しよう。



職員の指導のもとパソコンで事務処理を体験する学生。



インターンシップに関する企業等向けに行われた研修会の様子。



インターンシップを振り返る合宿形式の事後学習では、それぞれの体験を発表し合う。



インターンシップ終了後は、他者の体験を聞くことで反省点や改善点を明確にし、自分のものとするのが大切。



インターンシップ先の病院で、対応する学生。具体的に業務を体験できるため、仕事への理解が深まる。

さまざまな企業を知ることで  
将来の仕事の選択肢を広げる

現在、2人に1人は参加しているといわれる、学生のインターンシップ。最近の就職動向から希望者は年々増加しているが、そもそもインターンシップは、学生が企業や仕事を理解し、働くことに対する価値観や意欲を形づくる大切な体験。学生のうちに社会人としてのスキルや心構えを身につけることで、自分自身の成長につなげることができると。

一方、受け入れる企業にとっても多くの学生と出合い、企業の魅力を理解してもらう貴重な機会であり、社内の教育体制の整備に役立っているところもある。期間は5日〜10日間程度が平均的だが、近頃は1ヶ月以上にわたる中長期型インターンシップを実施する企業も増加している。

このように、インターンシップの形も多様化しているが、岩手県立大学では以前からキャリア教育の一貫として、インターンシップに対する学生の参加を支援。キャリアセンター主催のインターンシップ、企業等が主催する公募型インターンシップなどを提示して、学生の参加を後押ししている。受け入れをする企業も増えており、現在約190社がエントリーし、積極的にインターンシップに取り組んでいる。

事前・事後学習を行うことで  
企業での学びを自分のものに

では、県立大学のインターンシップには、どのような特長があるのだろうか。就職活動に役立つことが重要視されがちがインターンシップだが、大学が重点を置いているのが教育的側面。企業での就業体験を、いかに自分の学びとし、成長につなげるかが、大切なポイントだ。

そのためインターンシップを主導するキャリアセンターでは、事前学習↓就業体験↓事後学習という流れをつくり、学生のステップアップに結びつくプログラムを用意している。

まず、事前学習では、インターンシップで何を学んでいくのかを明確にするために、一人ひとりの自己目標を設定。その他に、学生は社会人として必要なビジネススマナリー研修、現場での対応を学ぶケーススタディ、就業体験に行く企業の研究など、必要な基礎知識を身につける。

また、インターンシップ終了後の事後学習では、就業体験の振り返りを実施。4年前から福島県の桜の聖母短期大学と共同で1泊2日の合宿形式の事後学習を行っており、大学を越えてインターンシップでの体験を共有。他者と比較して自己を振り返り、長所や弱点を認識させることで、今後につなげるようにサポートしている。



## ふるさとの未来を拓き、未来を担う人材を育む『学びの府』として 新たな計画への取り組みがスタート!

岩手県立大学は、第二期中期計画において、「学生目線」による教育と「地域目線」による研究・地域貢献に精力的に取り組んできた。そして平成29年4月から始まる第三期中期計画では、東日本大震災からの復興とその先を見据えた地域の未来づくりに寄与し、地域社会をリードするためふるさとの未来を拓き、未来を担う人材を育む『学びの府』として「いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学」を目指していく。



### [ 第三期中期計画の主なポイント ]

#### 1 「いわて創造人材」の育成

産業界・地域等との連携のもと、いわてをフィールドとした地域志向教育の充実と能動的学習の推進

- [主な取り組み]
- 副専攻「いわて創造教育プログラム」の充実
  - \*「地域」「いわて」に関連する科目(地域志向科目)を学部横断的に体系化した副専攻教育を充実。
  - \*本副専攻の全課程を修了した学生には、認定証と「いわて創造人材」の称号を授与。
  - 地域や産業界等と連携した能動的学習の推進
  - \*課題解決型授業やフィールドワーク等の能動的な学習方法を積極的に導入し、ディスカッション等を通じた学生の主体的・能動的な学びを推進。

#### 2 研究活動の強化

いわての「豊かなふるさと」の創生を支えるための戦略的な研究活動の強化

- [主な取り組み]
- 地域課題解決に向けた取組の推進
  - \*東日本大震災津波からの復興加速化プロジェクト研究や「地方創生支援チーム」による市町村の「地方版総合戦略」の推進をサポート。
  - 研究推進体制の強化
  - \*いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター(i-MOS)を、大学を代表する研究を推進する拠点として再編成し、産学公連携による大型研究プロジェクトを推進。

#### 3 地域の課題解決とグローバル化に対応

いわての「グローバル化」を促進するための多様な文化や価値観の理解促進支援ネットワークの構築

- [主な取り組み]
- 外国人が住みよい、過ごしやすいまちづくりを支援
  - \*県内の外国人が直面している問題や、各地域で外国人の支援に取り組んでいる団体の課題の把握と解決施策の提言。
  - 多文化共生理解支援の充実
  - \*多文化共生意識の普及や啓発を行うため、キャラバン活動やフォーラム等を開催。
  - \*学生の多文化理解を促進するため、文化や習慣の理解を深める教育の充実や留学生との交流機会を拡充。

#### 4 自主的・自律的な法人運営

平成30年に開学20周年という節目を迎えるに当たり、第三期中期計画に基づき、4学部4研究科2短期大学の教育研究組織の検証を実施。その検証結果に基づき、組織再編を行うなど将来に向けた体制整備に取り組んでいく。

## インターンシップの流れ

### [事前学習]

- \*目標設定
- \*企業研究
- \*ビジネスマナー研修など

## インターンシップ 実施

(企業の研修カリキュラムに基づいて就業体験)

### [事後学習]

- \*振り返り合宿
- 他大学と共同で行う学習会も実施。他者のケースと就業体験を比較しながら自己の長所や弱点を明確にする。



医療事務に興味があって盛岡医療生活協同組合を希望し、川久保病院でインターンシップをさせていただき、想像以上に仕事の幅が広いことに驚きました。実際に患者様の対応もさせてもらい、緊張しましたが笑顔で接することを心がけました。医療業界への就職を見据えて参加したので、病院の様々な仕事を知ったり、職員さんからいろいろ学べたことは、大きな収穫。この経験を就職活動に役立てたいです。

**館柳 成美さん**(社会福祉学部3年)

病院の事務職という医療事務をイメージしがちですが、多岐にわたる仕事内容を知ってもらうため受け入れを始めました。事務に限らず総合的にマネジメントできる人材を求めていますので、いろいろな部署を経験できるようにカリキュラムを工夫しています。インターンシップは学生さんとなつがる貴重な場ですし、若者が入ると院内に活気が生まれますね。

盛岡医療生活協同組合  
新人事務職員受け入れ担当・細田哲也さん 阿部彩子さん



東北の大学が連携し、県域を  
超えて学生をサポート

東北圏内の7大学や行政・産業界等と連携して、平成26年度から県立大学が幹事と

### [インターンシップin東北]



東北地域全体へのインターンシップの定着、普及を図るため、大学や地域団体が連携し、取り組みを活性化するために立ち上げられた。学生と企業がサイトにエントリーし、両者をマッチングする仕組みとなっている。

▶連携大学/岩手県立大学(幹事校)・岩手県立大学盛岡短期大学部・岩手県立大学宮古短期大学部・岩手大学・盛岡大学・尚絅学院大学・桜の聖母短期大学・会津大学・山形大学

<https://tohoku-is.jp/>

### [キャリアセンターからメッセージ]

インターンシップに参加する学生は増えており、意識も高まっていますが、体験先の企業選択が事務系に偏る傾向があります。もっと選択肢を広げて新たな分野に挑戦する意欲を持って、自分の可能性をさらに広げられるはず。また、本学の学生は、非常に真面目で素直な反面、積極性に欠ける一面も。社会では、主体的に仕事に取り組むことが求められますので、何事も自分から動き、貪欲に吸収する姿勢が大切です。ただ指示されたことをやるのではなく、インターンシップでの体験をどう役立てていくのか、常に意識して臨んでほしいと思います。



**高橋 郁磨さん**  
(岩手県立大学キャリアセンター)

なっているのが「東北インターンシップ推進コミュニティ」の取り組みだ。文部科学省からも最高評価「S」をいただいた取り組みの一つとしてポータルサイト「インターンシップin東北」がある。サイトではインターンシップにおける学生の参加申込や企業の受け入れのエントリーができ、学生と企業をマッチングする仕組みとなっている。さらに、各地域の大学等が連携していることで、出身地でのインターンシップも可能であり、県域を越えて学生をサポート。県外出身学生の選択肢を広げ、Uターンを支援する。

大学や地域を連携させることで、インターンシップに関する情報交換やノウハウの蓄積を行いながら、企業への普及を拡大。東北全体へ若い力が定着できる環境づくりを進めている。

地域ぐるみの支援により  
学生の地元定着を後押し

インターンシップを行う上で重要となっているのが、受け入れ先となる企業の理解と拡大である。首都圏に比べてまだまだインターンシップの重要性が広まっていない東北では企業の理解を得るためにも地域全体で意識啓発に取り組む必要がある。

そのために、「企業と大学のためのインターンシップ研修会」等を開催し、インターンシップの仕組みやインターンシップを受け入れる際のノウハウなどについて説明を行っている。

共通のゴールは、若者を地域で育て、地域に輩出すること。学生を育成する大学を核としながら、さまざまな業界との連携を広げ、地域全体で地元定着を後押ししていくことが必要であると考えている。



# Campus Friends

Vol.11

## ひだまり

県立大学のサークルや同好会、  
学生会活動を紹介します「キャンパスフレンズ」。  
生き生きと活動する学生たちの様子をチェックしてみよう。



## DATA

### 手話サークル「ひだまり」

平成20年創部、部員数48名。部員のほとんどが初心者だが、先輩の指導を受けながら楽しく手話を学んでいる。手話歌のレパートリーは幅広く、毎年イベントに合った歌を選び、練習を重ねて本番に挑む。みんなで一つの歌を作り上げていく楽しさがあり、コンサート後の達成感はひとしおだという。ただいま、メンバー募集中。  
[練習日時] 毎週月曜日18時～19時30分  
[練習場所] 社会福祉学部棟201講義室



夢灯りで手話歌を披露するメンバーたち。かりゆし58や星野源など、新たなレパートリーも加わった。

相手を思いやり、理解しやすい伝え方を工夫することだという。

このように多くの学びが得られる、手話の世界。年に数回は、学外の手話サークルとの交流もあり、「ひだまり」は徐々に世界を広げつつある。「手話を使って話す機会を増やし、新しいことをどんどん吸収していきたい」と柴田さんが語るように、今後の活動が楽しみなサークルだ。

「手話をされる方は、会話をする時の顔の表情や口の動きがとても豊かですし、ジェスチャーも大きい。私自身声が小さかったり、緊張で顔がこわはれることがあるのですが、手話を学ぶようになってから、相手にどう伝えるかを意識するようになりました」と柴田さん。手話歌もひとつの表現。大切なのは

「手話をされる方は、会話をする時の顔の表情や口の動きがとても豊かですし、ジェスチャーも大きい。私自身声が小さかったり、緊張で顔がこわはれることがあるのですが、手話を学ぶようになってから、相手にどう伝えるかを意識するようになりました」と柴田さん。手話歌もひとつの表現。大切なのは

「先輩たちが手話歌をやっているのを見て、興味を持ったのが入部のきっかけ。福祉に関わる新しいことに挑戦したいという思いもありました」と話すのは、サークル代表の柴田華子さん(社会福祉学部2年)。入部するほとんどの学生が、手話は未経験。先輩の指導を受けながら、簡単な会話を身につけて、手話歌を通して使える単語を増やしていく。

しかし、難しいのは歌のニュアンスを手話に訳すこと。手話の場合は、曖昧な表現がほとんどないため、歌詞にある抽象的な表現を、正確に置き換えるのは難しい。そこで「ひだまり」では月1回、耳の不自由な方に来てもらい、歌詞の訳のチェックを含め手話の指導をお願いしている。

手話との出会いを通して  
伝えることの大切さを学ぶ





# 学生生活を ホンネで 語ろう!

卒業を間近に控えた4学部の学生たちが、  
これまでの学生生活を振り返るホンネトーク。  
大学での勉強は?大学の魅力って?  
いろいろな角度から質問をぶつけてみた。



上村 美里さん  
(ソフトウェア情報学部4年・青森県出身)  
大学の学生広報チーム「キャンパスアテンダント」として4年間活動。卒業後は、東京都内のIT企業に就職する予定。

舟山 景道さん  
(看護学部4年・山形県出身)  
看護学部のボランティア活動やダブルダッチのサークル活動に熱中。卒業後は仙台市内の病院に就職する予定。

香木 なつみさん  
(総合政策学部4年・岩手県出身)  
1年生から、宮古市の観光をサポートする支援団体を立ち上げ、代表を務める。卒業後は、盛岡市内の会社に就職する予定。

澤口 友祐さん  
(社会福祉学部4年・北海道出身)  
子どもの学習支援ボランティアに励む一方で、さんさ踊り実行委員会でも活躍。臨床心理士を目指し、本学の大学院に進学予定。

**―岩手県立大学を選んだ理由は?**  
香木 高校時代から復興支援活動に携わっていたので、まちづくりや地域のこと学べる総合政策学部に進学しました。

**―高校と違うところは?**  
澤口 1年生からバリバリ専門の授業があると思っていましたが、最初は基礎科目が中心で…。しばらくは自由に過ごしていたのですが、夏休みからボランティア活動を始めたんです。大学って、自分でやろうとしないとも始まらないだと痛感しましたね。

**香木** 私も地域活動をやるうと意気込んでいたので、「あれ?」って感じてました(笑)。完全に文系の授業だと思っていたら、データ解析など数学力が必要とされるのが結構多かったの、イメージとずいぶん違いました。

**上村** ソフトウェア情報学部は、入学直後から研究室に配属されるんです。1〜4年生まで同じ研究室で、しかも女子がすごく少なくて、馴染むのははじめは苦労しました。

**舟山** 看護学部は、逆に男子がほとんどない学部。女子が多い世界でうまくやっていく楽しさを学びました。

**澤口** 私は、沿岸の復興支援ボランティアと、子どもの学習支援をしたこと。それと、さんさ踊りの実行委員を勤めて、大学を7連覇に導いたことかな。仲間と一緒に作り上げていく楽しさを学びました。

**舟山** 私も4年間ボランティア活動をしたんですが、ダブルダッチのサークルにも熱中しました。個人競技の経験しかなかったの、チームで表現することが新鮮で。仲間との切磋琢磨の中で協調性が身につきました。

**上村** 大学の広報を担うキャンパスアテンダント(CA)を、4年間やり遂げたことです。最初は同じ学部の友達がいなく不安だったんですが、新しいことに挑戦したくて、大学を案内したとき、高校生に喜んでもらえてうれしかったですね。

**―岩手県立大学の魅力とは?**  
舟山 看護学部に限って言えば、看護師、保健師、助産師、養護教諭から資格が選べること。それと、先生との関係性が良いことかな。先生との関わりを通じて、教員としての仕事にも興味を持つようになりました。

**上村** キャンパスがきれいなことは、最大の魅力です。うちの学部の場合は、1〜4年生の学生が集まれる場所があるので、先輩とのコミュニケーションも深まりました。

**澤口** キャンパスもきれいだし、自然がとても

るのか、不安でした。同期の男子学生は8人だったのですが、人数が少ないぶんすごく仲良くなったし、連帯感が生まれましたね。

**―学びで得たこと、大変だったことは?**  
香木 商業高校だったので、基礎科目の勉強で苦労しました。それに大学って、自主性と自己責任が問われる場所。先生方も「任せるから自分で考えてやってみなさい」と主体性を尊重します。現場で苦労したこともありました。でも、対応力が鍛えられました。

**上村** 私の研究室の先生は、細やかに指導してくれる方だったので、なんとか4年間やり遂げることができたと思います。一番大変だったのが高度なプログラムを仕上げる授業。徹夜で頑張ってもできなかったのですが、友達の支えもあって無事に単位を取得しました。

**澤口** 私も研究ではかなり苦しみました。自分でテーマもプランも考えて行う研究があったのですが、どうまとめたらいいいのか分からない…。ギリギリまで追いつめられて何日も徹夜状態で…。あの時は命の危険を感じたかも(笑)。それを乗り越えて、今では大抵のことなら対応できるようになりました。

**舟山** 私の場合は実習です。3・4年生になると長期の実習があるんですが、うまくコミュニケーションをとることができなかったり、睡眠時間が取れなかったり大変でした。でも、もっと大変な実習をしている友達も多く、「頑張らなきゃ」って刺激になりました。

**―課外活動で頑張ったことは?**  
香木 復興支援のため宮古市の観光をサポートしたいことがあれば、その実現をサポートしてくれる環境が魅力だと思います。支援団体を立ち上げる時も、先生や学生支援室、キャリアセンターの職員さんが、親身に相談のってくれました。

**―大学生活を振り返って思うことは?**  
上村 CAの活動や授業を通して、みんな考え、力を合わせる大切さを学びました。一人よりもみんなでアイデアを出し合った方がいいものだと思います。自分もみんなも成長できますから。

**舟山** ここで多くの人に出会い、さまざまな考えに触れたことで、視野や世界が広がりました。自分の新たな一面を見つけるなど、発見もありましたね。

**澤口** 振り返ると、自分がどういった人間なのか、自分自身に向き合った4年間でした。ただ、自分自身が確立したことで、いろいろな考え方も受け入れられるようになりました。

**香木** 支援団体を立ち上げたことで、目上の方や初めて会う方とも話せる度胸がつかめましたし、リーダーシップも身についたと思います。今はやり切った充実感がありますね。

このように、それぞれに自分なりの目標を見つけて、大学生活を謳歌している学生たち。卒業生へのアンケートでは満足度が90%を超える本学。学生の主体性を大切に育み充実した学びができるようサポートしている。



## 平成28年度「学長奨励賞」授与式

2月20日に平成28年度の学長奨励賞の授与式が行われました。学長奨励賞は学業・研究活動、社会活動等で顕著な功績をおさめた学生に授与される賞です。今年度は学業・研究での功績はもちろんのこと、ボランティア活動、サークル活動など、さまざまな分野で活躍した13組の学生及び団体に授与されました。



平成28年度学長奨励賞 2.20

### 看護学部

カッキー's  
東日本大震災後5年以上にわたり被災地である山田町で活動し、仮設住宅の住民のこころと健康をサポートする活動を続け地域に貢献。月に一回の活動は延べ60回を超え、これまで約2,000人が参加。

### ソフトウェア情報学研究科

大友 正樹  
台湾で行われた高度情報技術に関する国際会議(The 10th International Conference on Advanced Information Technologies and The 6th Forum on Taiwan Association for Web Intelligence Consortium)において、最優秀賞にあたるBest Paper Awardを受賞。  
鈴木 昂太郎  
国連機関の一つであるITU(International Telecommunication Union)が主催しているアカデミックカンファレンス「Kaleidoscope 2016」において、若手研究者奨励賞にあたる「Young Author Recognition Certificates」に選出。  
鶴崎 裕貴  
国際学会(The 4th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2016)にて発表を行い、ベストポスター賞を受賞。

### 総合政策学部

かもたまグループ  
キャリアデザインIIにおいて、企業と協働し、新商品を企画・開発。  
川原 直也  
災害支援、社会福祉、青少年育成に関わるボランティア活動を精力的に実施。

### スケート部

濱田 芽生子  
第71国民体育大会冬季大会「2016希望郷いわて国体」のスピードスケート成年女子500mで8位入賞、2000mリレーで4位入賞。

### 陸上競技部

千葉 拓末  
第67回東北地区大学体育大会陸上競技で、ハンマー投げ1位入賞。

### 将棋部

小山 怜央  
第33期全国アマチュア王将位大会優勝、第29回全国アマチュア竜王戦準優勝、第38回全国アマチュア将棋レーティング選手権準優勝 他。

### 学生クリエイターチームyurue

いわてアプリコンテスト2015で「アプリ部門大賞」と「モバイルファクトリー賞(企業賞)」を受賞 他。

### さんざ踊り実行委員会

盛岡さんざ踊りに参加し、7年連続最優秀賞を受賞。

### 岩手連合学生フォーミュラチームSIFT岩手県立大学メンバー

第14回全日本学生フォーミュラ大会で、EV総合優勝及び日本自動車工業会会長賞・省エネ賞を受賞。

### Monolith

ETロボコン2016東北地区大会のディベロッパ部門アドバンスクラスで、競技1位、モデル1位、総合優勝を受賞。



12.5-8



12.5-8

### 研究・学生活動を世界に発信!

本学の研究・学生活動を世界に発信するため、LCWS2016(リニアコライダーワークショップ2016)の関連フェアに出展しました。本学では、ソフトウェア情報学部によるバーチャルリアリティ体験ブースと震災後に発足し被災地のために何かしたいと活動している学生ボランティア団体のブースを設けました。この日のためにソフトウェア情報学部の研究室はILCバーチャルリアリティシステムを開発。ILCの地下空間を疑似体験できるというもので、専用のゴーグルを覗くと北上山地周辺の地形や地下の花こう岩の分布、ILCの建設位置などを3次元画像で見ることが出来ます。世界中から集まった多くの研究者が体験し、本学の研究に関心を持っていただきました。世界に本学の情報を発信する良い機会となりました。



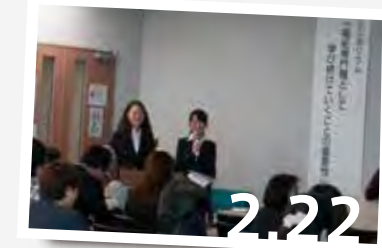
2.4



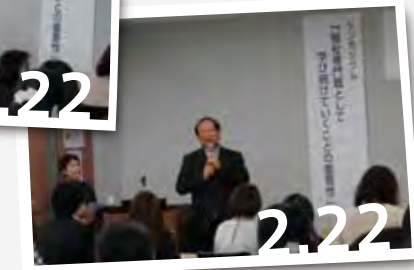
11.30-12.7

### 社会福祉学部、新たなステージに向けて!

社会福祉学部の介護福祉士課程は平成29年3月に最後の卒業生を送り出し、終了となります。これまでの長年の教育を振り返るとともに、新たなステージへ向けて「介護福祉士のための研修会」を2月22日に開催しました。当日は、シンポジウムも行われ、本学の学生や卒業生、実習先の施設職員の方が参加し、「福祉専門職として学び続けていくことの重要性」についての発表や意見交換を行い、理解を深めました。三上人間福祉学科長は最後の挨拶で「課程はなくなるものの、介護という分野は福祉を学ぶうえで重要な教育であり、改めてカリキュラムの一つに介護を位置付けることで教育強化を図っていくものと締めくくりました。」



2.22



2.22

### 本学学生がレポーターとして出演

3月11日、テレビ岩手で放送された県政特別番組「6年目の道しるべ〜あの日から今日までの復興の歩み〜」に本学の学生が出演。番組では、復興支援に携わった学生たちと被災者との対話を軸に、復興の現状を学生の目線でレポートしました。テレビ局での収録では、達増岩手県知事も共演。これからの復興を担う学生たちの復興への思いが詰まった番組となりました。



3.11

## 人事情報

### 【新任学部長等】(平成29年4月1日付け)

宮古短期大学学部長 田中宣廣  
高等教育推進センター長 齋藤俊明

### 【教員の異動等】

#### 退職(平成29年3月31日付け)

看護学部 教授 菊池和子  
看護学部 教授 三浦まゆみ  
看護学部 准教授 蛸崎奈津子  
看護学部 助教 藤村史穂子  
社会福祉学部 准教授 佐々木千晶  
社会福祉学部 助教 阿部明子  
総合政策学部 教授 豊島正幸  
総合政策学部 教授 吉本繁壽  
総合政策学部 准教授 見市 建  
総合政策学部 講師 金澤悠介  
盛岡短期大学部 教授 魚住 恵  
宮古短期大学部 教授 植田真弘  
宮古短期大学部 教授 宮沢俊郎

#### 採用(平成29年4月1日付け)

看護学部 助手 中野千恵子  
看護学部 助手 藤澤 望  
看護学部 助手 大黒屋安由子  
看護学部 助手 高岩奈津美  
社会福祉学部 講師 柴田徹平  
社会福祉学部 講師 原子 純  
社会福祉学部 講師 泉 啓  
宮古短期大学部 教授 松田 淳



12.5

### 岩手県より感謝状をいただきました!

岩手県より2016希望郷いわて大会(全国障害者スポーツ大会)における選手団サポートボランティアの協力の御礼として感謝状を授与いただきました! 本学では約90名の学生が参加し、競技が円滑に進むよう車椅子を押すなどさまざまな形でサポートを行ってきました。今回の表彰は学生がこれまで尽力した大きな成果となりました。



皆様のご芳志に厚く御礼申し上げます  
**岩手県立大学未来創造基金 寄附者御芳名**  
 2016年12月1日～2017年2月28日現在(ご寄附年月日順)

- |          |         |
|----------|---------|
| 木村 良光 様  | 南雲 雄太 様 |
| 竹澤 健作 様  | 佐野 圭太 様 |
| 来馬 登 様   | 福島 志保 様 |
| 小野寺 一行 様 | 今野 慎也 様 |
| 堀江 茂民 様  | 於田 明子 様 |
| 吉田 史人 様  | 吉田 康子 様 |
| 千葉 茂 様   | 佐藤 康二 様 |
| 和山 亨 様   | 高橋 一教 様 |
| 大川 慎 様   | 井上 元 様  |
| 寺崎 拓哉 様  | 齊藤 秀和 様 |

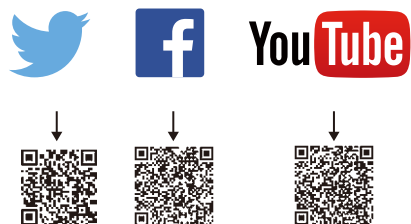
※ご寄附をお寄せいただいた皆様のうち、ホームページ等での公表についてご承諾いただいた方を掲載しております。

## 編集後記

今回はホントークが満載の号となりました。特集1ではインターンシップを受け入れていただいた企業様のご協力のもと本学が進めているインターンシップの取り組みについて紹介しました。今年初めて春休みにもインターンシップを実施することが決まり、インターンシップ真っ最中の現場取材し、学生や企業様のそれぞれの想いを直接伺うことができました。また、特集2では卒業を間近に控えた4年生にこれまでの学生生活を振り返ってホントークをしていただきました。それぞれ大変だったことも多いようですが、最後に「本学に入ってよかった、やり切った充実感」という言葉が職員としてとてもうれしく感じました。(企画室 築田)

## 岩手県立大学のホットな情報発信中!

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などをリアルタイムに発信をするためTwitter公式アカウント【@IPU\_official】、Facebook、YouTubeで情報提供を行なっています。是非、ご覧ください。



**岩手県立大学** 企画室  
 Iwate Prefectural University

# This is My OB&OG Voice Action!

大学で学んだことを自分の糧としながら、様々な分野で活躍する県立大学の卒業生たち。それぞれの職場や地域で頑張っている卒業生の「ワタシアクション!」をご紹介します。



**車掌として社会人としてもっと視野を広げ、いずれは地域の活性化を支える仕事に**

お客様の安全を守り、快適に利用していただくことが、車掌の仕事。どんな時も笑顔での接客を心がけている。

岩手に貢献したいという想いから盛岡短期大学部に進学したのですが、2年生に進級する直前に震災が発生。実家のある釜石が被災したこともあり、故郷のために役立つ勉強を身につけたいと考えようになりました。選んだ道は、総合政策学部への編入。ここで自然災害のゼミに入り、子どもたちに地域の防災を考える授業を行ったり、ハザードマップ作りなどを指導。実際にその場に足を運び、自分の体験を通して物事を理解し、伝えることの大切さを学びました。

IGRいわて銀河鉄道(以下IGR)に就職したのは、とても身近な存在であり、多くの人と関わりながら仕事ができると考えたからです。特に車掌は、現場の最前線でお客様をサポートする仕事。列車のドアの開閉管理、車内アナウンス、切符の回収や車内温度の管理など、さまざまな業務がありますが、常に笑顔で接客することを心がけています。特にIGRは地元に着きやすいので、顔を覚えてもらったり、気さくに声をかけていただくことも多く、お客様との距離がとても近い。何より「ありがとう」という言葉がうれしく、仕事のやり甲斐につながっています。

車掌としては4年目になりますが、今後のために挑戦しているのが資格の取得です。昨年は仕事のかたわら試験勉強に励み、第一種衛生管理者と国内旅行業務取扱管理者の資格を取得しました。IGRは鉄道業以外にも、旅行業や不動産業、飲食業など幅広く事業展開をしているため、いずれ資格を役立てるチャンスがあるはず。もっと視野を広げながら、沿線の地域の活性化をお手伝いできる仕事ができたらいいと考えています。

## ワタシ★アクション!

**大和田 晴美** Harumi Owada  
 IGRいわて銀河鉄道運輸管理所・車掌

1991年生。釜石市出身。釜石高校を卒業後、岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科に進学し、3年生から岩手県立大学総合政策学部へ編入。高校時代は女子のボクシング選手として活躍し、学生時代はダブルダッチで全国大会に出場するなど、アクティブに活動。趣味は、買い物、読書、旅行。いつか海外を一人旅するのが夢だ。

...See You Next Action!

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。そんなCAたちがお送りする、県大生の県大生による県大生の今を伝えるためのコーナーです。バ(\*´▽`\*)♪

# ケンダイ★広報局

学生★企画



## プチ学部紹介ちゃんねる

今回は学部ごとに異なるマストアイテムと特徴的な施設をちょこっと紹介しちゃいます(\*´ω`\*)♪

### 社会福祉学部 人間福祉学科

Must Item!



①リュックの中に常に入っているものを紹介します!エプロンやピアノの教科書、そして色ペンです。②エプロンは実習で使いますし、ピアノの練習も欠かせないので教科書は必需品です!そして色ペンは工作でキャラクターや展示物を作るときに使います。カラフルな展示物を作るのでとても大事です!③高くても2000円程度です。④保育者になることです。

Question!!

①Must item ②どんな時に使うの? ③値段はどれくらい? ④将来の夢

Must Item!



盛岡短期大学部 生活科学科

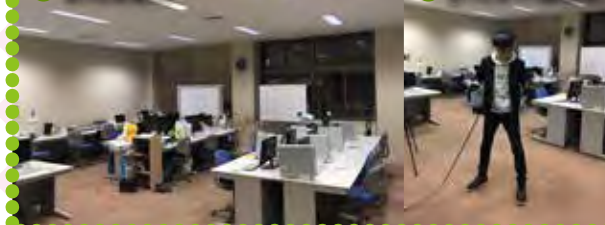
マストアイテム

①三角スケールとシャーペンです!三角スケールとは縮尺定規の一つです。三つの面の両側に6種類の縮尺の違う目盛りが刻まれているちょっと変わった定規です。②これは製図の際に使用します。寸法を測って図面を描いたり、描かれた図面から寸法を読み取ったりするために使う道具です。生活デザイン専攻の製図の授業を選択している学生は、だいたい週一で使用していますね。③700円ほどで手ごろなお値段です。④今学んでいることを活かせる仕事に就きたい。

## 施設紹介 ヒューマンインタフェース研究室

A 研究室紹介

B 研究室の機器紹介



④この部屋は「研究室」として、私の大学生生活の拠点となっている場所です!ソフトウェア情報学部の学生には1人1台のパソコンが与えられるので、この部屋で課題をやったり、ネットサーフィンをしたり自由に過ごすことができます。1~3年生が1つの部屋にいて、学生同士の教え合いが自然と行われているのが素晴らしいですね。⑤私が所属する研究室には今、話題のVR(バーチャルリアリティ)があります!他にも3Dプリンターやレーザーカッターなどの機械もあります。新しい技術にドンドン触れられるのがこの研究室の魅力です!研究室ごとに様々な特徴があり、ここでは紹介しきれないので、ぜひ大学見学にいらしてください!

ソフトウェア情報学部



【Twitterアカウント】@IPUCA 岩手県立大学キャンパスアテンダント公式アカウント!!  
 ※ツイート内容は大学の公式見解ではありません。大学生目線でCAメンバーがつぶやきます!!ハッシュタグは#ipu\_ca